

第2回総合戦略推進委員会

要点記録

日時：平成29年7月26日（水）
午後6時30分～8時00分
会場：庁議室

次 第

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 平成28年度総合戦略における具体的な施策の進捗状況報告及び評価について（基本目標3及び4）
 - (2) 平成29年度（平成28年度事業）昭島市総合戦略評価報告書（案）について（基本目標1及び2）
- 3 その他
- 4 閉会

配布資料

事前送付資料

- ・資料1 総合戦略の基本目標における数値目標の達成度（追加資料含む）
- ・資料2 総合戦略における具体的な施策 進捗状況一覧
- ・資料3 地方創生加速化交付金事業の概要
- ・資料4 昭島市総合戦略推進委員会委員名簿

机上配布

- ・資料5 平成29年度（平成28年度事業）昭島市総合戦略評価報告書（案）

出席者（敬称略）

委員長・・・松本祐一（多摩大学総合研究所）

副委員長・・・岡勝彦（立川公共職業安定所）

委員・・・水野宏一（昭島市商工会）、勝見真之（連合多摩中央地区協議会）、樽松洋（公募市民）、中尾一博（公募市民）

事務局・・・山下企画部長、田中子ども家庭部長、萩原企画政策課長、倉片健康課長、淺利企画政策係長、高橋

1. 開会

○事務局より配布資料の確認

2. 議題

- (1) 平成28年度総合戦略における具体的な施策の進捗状況報告及び評価について（基本目標3及び4）

①基本目標3「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について

○事務局より、基本目標3について、資料1「総合戦略の基本目標における数値目標の達成度」及び資料2「総合戦略における具体的な施策 進捗状況一覧」に基づき説明

- 樽松委員・・・ K P I（目標値）については変更しないのか。目標達成が難しいと思われるものがいくつかある。
- 事務局・・・ 基本的には、策定時から5年間の目標値として、設定しているが、新たに始まる制度の動向を見据え、設定したのものもあることから、この委員会でご意見をいただき、P D C Aサイクルの中で、取組状況も含め、K P Iの見直し・修正というのは致し方ないと考えている。修正する場合においては、委員会での意見を踏まえて報告書の中で記載をしていけば可能ではないかと考えている。
- 委員長・・・ そういった意味でK P Iの妥当性も含めてご意見いただきたい。
- 樽松委員・・・ 妊婦健康管理支援について目標より下回っているが、達成出来なかった原因等をみると実績が低くても良いような感じがするが、それについてはいかが。
- 事務局・・・ こちらの事業は先行型交付金を活用して始めた事業である。当初この事業は目玉の事業として取り組んできたが、実際に他の部署で行っている類似の事業等との関係からK P Iの達成には至っていない側面もある。しかしながら、K P I達成の側面以外の効果もあると考えている。参加者の中では母親同士のネットワークが構築されている部分などもあることから、この数字だけに囚われる事業ではないと考えている。
- 委員長・・・ そういう意味では少し俯瞰してみる必要があると思う。達成できなかったものと、大きく目標をオーバーして利用されているものとある。例えば一時保育預かり、休日保育など働いている母親が増えている事が、一つの要因なのかもしれないが、そういったものに対してのニーズが非常に高まっている感じを受ける。逆に昔ながらの妊婦や母親への支援みたいなものは少し低調になったり、または全体の数字を見ても多子出産がなかなか進まない中で、やはり増えていかないという傾向がみえるが、現場側としては見ていて特に子育て、母親たちのニーズの変化をどう感じているのか。
- 事務局・・・ 現場でも数値目標の設定については難しいと感じている。例えば一時保育預かりで目標を設定しても希望を全て受けられないという現場の判断もあり、相手方のいる事、経費が掛かる場合があるので、制限なくという訳にはいかない実態がある。
- また、病児・病後児保育は目標を少し上回っているが、病気のお子さんを施設に預けるのを嫌がる親御さんもいる一方で、現実には仕事に行かなければというお話をお伺いすることもあり、目標設定というのは本当に難しいものだと感じる。
- 委員長・・・ もちろん目標を達成したのか、していないのかという事が大事だが、それだけ利用が多いのは、求められている部分があるという評価も出来る。利用されていないというのは、こちらの努力というよりは、そもそもニーズがなくなってきたという判断も出来る。そこは大きな視点で見なければいけないと感じる。
- 副委員長・・・ 妊婦健康管理支援について、就業している方が増えて参加者が減少したとあるが、事業実施の曜日や時間帯についてどのような設定で実施したのか。
- 事務局・・・ 基本的には平日の日中の時間帯に実施しており、女性の就業者数が増えて参加者数がなかなか集まらない状況にあると考える。現在は委託事業として行っており、事業者に対して参加者数の増加に向け、施設の関係などの課題はあるものの、曜日の設定等について、検討をしてほしいと話している。これに合わせて健康課で行っている母子保健の中で、以前から母親学級というものがあるが、

やはり就業している母親たちがとても多くなってきていて、母親学級も減少傾向にある。

副委員長・・・ 日中だと就業している方はなかなか参加するのが難しい。

事務局・・・ 夜間は妊婦の方には負担がかかるので難しいが、土曜日、日曜日設定が出来るのか事業者と検討していく。

中尾委員・・・ 児童センターの充実についてもう少し説明を伺いたい。利用人数が減った原因として学童クラブが移設され、通っていた児童数の分減少したと理解しているが、それであれば今後の目標値は変更しなければいけないのではないのか。

また、実態としては問題ないのであれば減った人たちはどうなっているのか、減った人たちの心配は必要ないのか。

事務局・・・ 学童クラブについては新しいつつじが丘小学校の中に新築しているので、サービス自体が低下したわけではなく、敷地内に設置されたことで、むしろ向上している。数値については検討が必要であると考えている。昨年外壁塗装工事等を行い、開館はしていたが幕で囲っていたりしたので、利用数が低下したのではないかと考える。

事務局・・・ これまで児童センター内に学童クラブが併設されており、学童クラブに通っている児童は児童センターも同時に利用していたため、利用者数に含めていた。移設したことに伴い、概ね1万人程度の減少が定例化していくのではないかとと思われる。利用人数としては日本一となっている。

利用者数を分析する中で、学童クラブの児童数で計上していた数値を抜き出して、それを元にKPIの修正を検討していく。

委員長・・・ 学童クラブの児童数を含めた数字だったので、そのまま残すというのは非現実的であり、分離した形で表記した方がよい。ここは変わっても特に問題はない数値である。

委員長・・・ ファミリーサポートセンターについて、利用者の減少した理由が障害児デイサービスが充実したことにより、障害児の送迎が減少とあるが、これが大きな理由なのか。

事務局・・・ ファミリーサポートセンターの利用については、障害を持つ児童の特別支援学校のバス停までの送迎や保育園、幼稚園において、親御さんが帰る前までの間の送迎などが利用人数の多くを占めていた。しかし障害者の事業所が増えた事により、そちらの事業が給付事業の中で利用が出来ることになり、費用的な面でもそちらを利用した方が効果的だということで減少したのでないかと考える。

委員長・・・ 健常のお子さんの学童代わりのような形でのファミリーサポートの利用はあまり多くないということか。

事務局・・・ 送迎が一番多く、預かりの部分での利用数はあまりなく、必要であれば保育所の一時預かりを希望するケース多い。

委員長・・・ 保育所の一時預かりが増えていて、どちらかというところちらが利用されているということか。

事務局・・・ 一時預かりに関しては平成27年度に子ども子育て支援事業計画という新しい計画を策定し、このような数値を設定したが、その時に見通せなかったものがある。

事務局・・・ 総合戦略の策定と、子ども子育て支援事業計画の策定の時期が重なっており、子ども子育て支援事業計画に位置付けられた目標指標と整合性を図りながら、同じ指標を総合戦略にも位置づけている。子ども子育て支援事業計画の見直し時期を踏まえ、子ども子育て支援事業計画における外部委員会の意見を伺いながら必要に応じて見直していかなければならないと考えている。

勝見委員・・・ 昭島市リーダーズクラブの育成について、内容には中高生を中心としたとあるが、中学生講習会を受けた中学生しか入れないのか。

事務局・・・ 一番最初は講習を受けた中学生しか入れないが、卒業して高校生や大学生になった方でも残って活動していただく事は可能である。

勝見委員・・・ それでも、この人数なのか。

事務局・・・ なかなか学校の部活動などとの両立が難しく残りたいが難しいと聞いている。

勝見委員・・・ 講習を受けないと入れないのか。

事務局・・・ 中学生リーダー講習会はキャンプも含めてリーダーを育てるための講習であるが、まずその講習に参加していただく事が条件となっており、その卒業生を地域のリーダーとして育成していく、継続していくための事業である。

勝見委員・・・ 高校生になってから入りたいと思っても無理なのか。

事務局・・・ 現在の制度はそうなっている。

勝見委員・・・ そのあたりを改善すればもう少し人数は増えるのかと思う。立川市では講習もなく地域が拾い上げてどんどんリーダーを育成していく。各地域でリーダーになった子どもたちが市で運営している講習会に任意で参加して研修を受けている。もう少しやり方を見直せば、各地域からの拾い上げ、子どもたちのリーダーの育成が出来ていくのではないかと。

水野委員・・・ まちコンの開催について新規事業という事で、前回この委員会で議論した内容は商業部会の役員にこのような計画がある旨を改めてお話させていただいた。この事業の実施には大きなエネルギーが必要になり、多くのサポート態勢が必要になる。また、商店街の活性化も視野に入れていく必要もあることから、課題解決に向け、市と調整を図りながら、商工会としても前向きに検討していきたいと考えている。

フレッシュパパ・ママ学級について新規となっているが、かなり前からこの事業はあると認識しているがいかが。

また、こんにちは赤ちゃん事業について、訪問指導世帯率100パーセントとあるが、訪問だけなのか、実際に保健師が話を聞いている数字なのか、それによっては目標設定の仕方に疑問を感じる。

事務局・・・ フレッシュパパ・ママ学級については継続事業であり、記載誤りと思われるため確認して修正する。

こんにちは赤ちゃん事業については、昨年度子育て世代包括支援センターを開設し、それに併せてこんにちは赤ちゃん事業と乳児家庭訪問を統合し、乳幼児全戸家庭訪問事業として実施している。生後4か月の間までに全ての家庭を訪問し、全ての母子と会う事が原則となっており、昨年度の訪問指導世帯率100パーセントはその結果を反映したものとなっている。

委員長・・・ どうしても妊婦の方を対象とする事業や子ども連れのイベント、講座等は当然体調の変化などで思ったように数字が伸びないこともあり、それをある程度見込んだ目標数値もあると思われる。先程から話題になっている働く女性が増え、ライフスタイルが変わっていく中で、時間や場所について、事業を実施する上で少し工夫すれば改善する部分もあると思われることから、それを意識していただき、更にはニーズが高いものにはさらに注力する事も検討していただきたい。少しずつでも社会の変化に対応した事業スタイルに変えていく意識をもって進めたい。

②基本目標4「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携す

る」について

○事務局より、基本目標4について、資料1「総合戦略の基本目標における数値目標の達成度」及び資料2「総合戦略における具体的な施策 進捗状況一覧」に基づき説明

委員長・・・ 基本目標4はある意味で一番難しい内容であり、特に基本目標自体の数値目標の増減の理由又はそれに影響を与える事業として、それぞれの事業がどれだけ影響を与えることができるのかというところは、先程の子育ての事であったり、産業であったり、そういうものと比べると関係性が見えづらい領域だと思われる。純粹につながらないところもあるかもしれないが、個別事業を見ながらご意見を伺いたい。

中尾委員・・・ 地域ケア会議の開催について、個別地域ケア会議は、計画通り開催されているが、地域ケア推進会議については平成28年度開催されなかった。個々の包括支援センターは元気に活動されていると思うが、それを統括し、全体を推進していくという重要な会議である地域ケア推進会議が行われなかった。内容を見ると年度内に開催できなかったとあり、極端な話し3月31日までに開催できず、平成29年度4月1日以降に実施して、翌年度になってしまうという事なのか。それであれば現在は行われているのか。また、開催自体が難しいのであれば他の方法も考えなければいけない。本質的に何か開催しにくい理由があるのか、その辺について伺いたい。

事務局・・・ 個別地域ケア会議については進められてきたが、それを取りまとめる地域ケア推進会議については年度内に実施できなかったもので、平成29年度に実施予定であると捉えている。基本的には年度内に実施する事が通常は望ましいので、年1回の開催を目標値としている。

併せて、介護保険事業に関しては介護保険事業計画を策定し、3年に1回見直しを図る中で、介護保険事業の全体を把握する会議である推進協議会において、全体的な給付の動向や、サービスの推移などについての検討を行っている。

委員長・・・ 高齢者福祉センター事業について利用団体の減少というのが原因として記載されているが、この背景と理由はいかがか。

事務局・・・ 高齢者福祉センターについては市内3ヵ所あり、その中の松原町高齢者福祉センターでは基本的に老人クラブ連合会の活動の場としての位置づけもあることから、利用率自体はまだ減少には至っていない。しかしながら、全体として、会員増に務めているものの、自治会加入者も減少傾向にあるのと併せて老人クラブ連合会の会員も減少している。背景にあるのは高齢化が進み活動が低迷下してきている部分が要因となっていると考えている。老人クラブとは別の団体、グループも団体利用として利用してはいるが、高齢者福祉センターの利用団体の減少という結果につながっているものと考えている。

委員長・・・ そういった既存の組織がなかなか人を集めることができず、活動、会員が減っているというのは、どこの地域でもある。これは社会の大きな流れでもあるので、そういったものに対応した体制をとっていく必要があると思う。

副委員長・・・ コンビニ交付事業が遅れた理由はなにか。

事務局・・・ コンビニ交付のためにはマイナンバーカードの発行が必要となる。カード発行のための情報管理をしている地方公共団体情報システム機構のシステムの不具合等も大きく影響し、マイナンバーカードの交付に時間を要した。こうした中で、コンビニ交付について1月を予定していたが、時期を見送った経過がある。2月にはコンビニ交付を開始し、順調な滑り出しをしているところではあるが、目標

値には達していない。現在マイナンバーカードの交付率も世帯数の1割程度で伸び悩んでいる状況がある。マイナンバーカードを持つ方はコンビニ交付を利用しているものと認識しているが、カード自体の発行件数を増やさないと目標達成は厳しい状況にあると考えている。

副委員長・・・ 市内何か所のコンビニで対応しているのか。

事務局・・・ 殆どどのコンビニで対応している。

委員長・・・ 全体をみるとコミュニティにおける組織そのものが立ち行かなくなる中で、個人化していく我々の生活にどれだけ対応できるのかという視点も重要となる。

例えば、宿泊費助成事業などは、市民の保養とか余暇活動を行政がどこまで支援するのかという視点もある。また、市民活動支援事業についても、これだけNPOや市民活動がある意味当たり前になった時代において、どこまでお金を出して支援するのかについて考える時期に来ているのではないかとも思う。今まで弱い存在であった時は行政が後押しをしてあげないとなかなか進まない部分はあったと思うが、そこまでしなくても民間で十分に出来るといった考えもある。既存の組織が弱体化していく一方で、新しく市民の動きが増えてくるといった大きな流れの中で、どこまで市が税金を使って支援をしていくか考えるところに来ているのかと思う。

逆に防犯とか防犯カメラの設置などはかなり増えてきている。今問題になっているコミュニティの危機みたいなものに対するニーズが高まっている。時代の流れを見ながら実施していかなければならない。

そういった状況において、空き家対策については、是非積極的にやっていただきたい。計画については当然動いていると思うが、早めにスケジュールを立てて、具体的に動いた方がいいと考える。

水野委員・・・ 委員長からもあったとおり、事業から直接目標達成の施策としては捉えづらい部分もあるが、その中でいきいき健康ポイント制度について、目標の観点から言うと魅力あるまちづくり、住んでみたいというところの事業として一つの効果がある事業だと考える。この施策の実感や手応え、また、目標を大幅に超えていることを踏まえ、今後どう伸ばしていくのかを伺いたい。

事務局・・・ いきいき健康ポイントについて、応募するためには30ポイント貯める必要があるが、高齢者の方にとっては、なかなかハードルが高いとご意見いただいた。その反省を踏まえ、2年目から高齢者専用カードを設け、そのカードの方は20ポイントで応募が出来るようにした結果、2年目は高齢者の応募が多くなった。

今後は、実績値延べ1,406枚となっているが、実際の参加人数は300名であることを踏まえ、参加人数を増やすことに視点を置いて取り組んでいきたい。現在継続して参加している方々が高齢者サロン等において、口コミで広げていただいた効果もあると感じている。

委員長・・・ 非常に面白い取組である。若い方も参加されているのか。

事務局・・・ 年齢制限はなく、小学生、中学生も少数だが参加している。

委員長・・・ 基本的には市の講座や事業に参加したらもらえるのか。

事務局・・・ その他にも、毎日歩くなど自主的に目標設定して、それを達成することで日付を書いて1ポイントとなる。あくまでも自主申告制なので、応募しやすくなっているものと思われる。

樽松委員・・・ 現在は健康な高齢者と、そうではない高齢者とが二極化している気がする。健康な人は外に出てくるがそうでない人は出てこない。どのようにその方たちを支援するかが重要となる。現在、シルバー人材センターの需要は増えているので働

く人が増えているが、それは元気な人たちでそうではない人たちをどうやって底上げしていくのかを考えていかなければならないと感じている。

委員長・・・ これはどこの自治体でもある意味、健康事業には健康な人が参加しているという事がある。ほんとに来ていただきたい人たちを、どうやって参加してもらうかが非常に難しいところだと思うが何か対策はあるのか。

事務局・・・ 最近では60歳以上となっても元気な方もおり、趣味も多様化してきている中で、団体に属さなくても生活を楽しめるという環境もあるものと感じている。老人クラブ連合会などでも、高齢者の中でも若い人たちに向けた事業の実施など検討されているようだが、そういった視点の取組を実施していく事が対策の一つとなる。

また、なかなか引きこもりがちな高齢者もいる中で、そういった方々に対して地域の任意でのサロン活動や自治会でのサロン活動で呼び掛け等を行っており、団体数としても増えてきている状況を見ると、そういったニーズも高まってきているものと考えている。地域ごとにも課題はあるので、今後についても地域ケア会議で課題を抽出するなかで対応策を検討する必要があると考えている。

委員長・・・ 我々のライフスタイルも変化していくなかで、それに少しづつでも対応していく事も非常に重要である。

(2) 平成29年度（平成28年度事業）昭島市総合戦略評価報告書(案)について(基本目標1及び2)

○事務局より、資料5「平成29年度（平成28年度事業）昭島市総合戦略評価報告書(案)」に基づき説明

委員長・・・ K P Iについて報告書にて修正する項目を記載して変更するという事によろしいか。

事務局・・・ 再度庁内委員会を開催し調整する。

委員長・・・ また最終の案が出てくると思うので、確認していただき何かあれば事務局に連絡をしていただければと思うが、現時点での全体の構成や編集の方針等についてご意見をお願いしたい。

水野委員・・・ 「基本目標1・総評と数値目標の評価」と題する部分について、評価の欄をもう少し分ける事は可能か。文章があまり長すぎると、見づらく感じる。

事務局・・・ 体裁については、いただいたご意見を踏まえて、対応を図る。

委員長・・・ K P Iの変更については他の市でもやっている関係で皆悩んでいるところである。しっかりとエビデンスをもって、変更したんだという事は非常に評価される事だと思うので、K P Iの変更の部分については、例えば纏めて欄にするなどの対応を図られたい。

事務局・・・ 事務局としてもK P Iの見直しについて、各事業ごとに出たご意見は書かせていただき、取りまとめについては内部委員会の意見も踏まえて、最終的なK P Iの設定変更について一覧表等見やすいものを提示したいと考えている。

3. その他

特になし

4. 閉会

委員長・・・ 以上をもって、第2回総合戦略推進委員会を閉会とする。